

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 7月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	0171100191		
法人名	メリーライフ株式会社		
事業所名	グループホーム 里の家千歳		
所在地	千歳市若草1丁目18-2 (電話) 0123-28-5184		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年6月27日	評価確定日	平成20年7月10日

【情報提供票より】 (20年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年 4月 12日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	21 人	常勤9人, 非常勤12人,	常勤換算11人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨コンクリート 造り		
	3階建ての 1~3 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	61,000 円
敷 金	有() 円)・○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円) ○ 無	有りの場合 償却の有無	有 / ○ 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4) 利用者の概要(6月27日現在)

利用者人数	25名	男性 8名	女性 17名
要介護1	8名	要介護2	7名
要介護3	7名	要介護4	3名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 80.1歳	最低 54歳	最高 95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北星病院・介護老人保健施設北星館・浅沼皮膚科医院・向陽台歯科
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営法人にとって当ホームは、小樽市、北広島市、札幌市に次いで四番目に開設され、千歳市では先駆者的存在のグループホームである。法人本部の全面的な支援のもと、職員はケアサービスに専念できる体制が整っている。また、殆どが開設以来の職員でユニット間の交流も盛んであることから全職員、利用者と馴染みの関係作りが構築されており、利用者は安心した生活が続けられている。また地域との関係も良好で、挨拶をかわしたり行事には職員と利用者も参加し交流を深めている。内部・外部研修にも力を入れており、より質の高いケアを目指し今後の更なるレベルアップに向けて期待の持てるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題である「地域密着型サービスとしての理念」と「プライバシーの確保」は改善されている。施設については、安全確保ということで家族の同意も得ているが、今後の取り組みに期待したい。夜勤体制については、法人本部の方でも取り組みを検討しているところである。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者はじめ管理者、職員は、評価の意義と活用の仕方を理解しており、今回の自己評価についても、全職員一項目ごと話し合っまとめ上げ、日々実践しているケアサービスを振り返りながら職員間での共有を図っている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヵ月に一度順調に開催されており、会議記録も整備されている。会議内容もテーマが決められており、課題の協議や実現に向けた活発な意見や提案が出され、そこでの意見要望は、法人本部並びにホームで検討し可能な限り取り組めるような体制になっており、サービスの向上に活かしている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱や相談専用電話回線を設けており、内部、外部の苦情相談窓口も明確にしている。家族からの意見や要望は、家族対応記録簿に記して対応を検討する流れができており、運営に反映するよう取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域との関係は良好で、町内会長はじめ民生委員の方が推進会議にも出席し、協力的である。散歩の際は挨拶を交わしたり、地域のお祭りや行事、また、市民文化祭に参加をしている。管理者は、自治会の会合にも参加し、地域とホームの交流を深めている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営法人が定める独自の運営理念を掲げ、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるように支援し、日々のケアに活かすよう努力している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の確認できる場所に運営理念を掲げ、運営者はじめ職員は、毎朝の申し送り時や会議で復唱し、実践に向けた意見統一を徹底し、理念を掘り下げながら日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との関係は良好で、散歩の際に挨拶を交わしたり、地域のお祭りや行事、また、市民文化祭に参加している。管理者は、自治会の会合にも参加し、地域とホームの交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者はじめ管理者、職員は、評価の意義と活用の仕方を理解しており、今回の自己評価も、全職員一項目ごとに話し合っまとめあげ、日々実践しているケアサービスを振り返りながら職員間での共有を図っている。		

千歳市 グループホーム 里の家千歳

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヵ月に一度順調に開催されており、会議記録も整備されている。会議内容もテーマが決められ、課題の協議や実現に向けた活発な意見や提案が出され、そこでの意見要望は、本部並びにホームで検討し、可能な限り取り組めるような体制になっており、サービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人本部の担当者や管理者が、市の窓口や担当者と積極的に係わりを持ち、ホームの実情報告や情報交換を行ない、時には、メールでやり取りをしたり、案件については必要の都度相談して、連携を図りながら質の向上に向けた協働に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪した際に日常の様子を知らせたり、定期的な電話連絡や毎月発行される「里の家たより」は、利用者家族向けの記載欄もあり、ホームでの出来事や身体状況などを知らせている。金銭出納に関しては、毎月出納と領収書を送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や相談専用電話回線を設けており、内部、外部の苦情相談窓口も明確にしている。家族からの意見や要望は、家族対応記録簿に記して対応を検討する流れが出来ており、運営に反映するよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は殆どなく、ユニット間の交流が盛んであることから、全職員は、利用者との馴染みの関係作りが構築されている。やむを得ない場合は、利用者への影響を最小限に抑えるよう、利用者や家族の気持ちにそった配慮を心がけて支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員研修に熱意を持ち段階に応じた外部研修や法人本部が行なう内部研修に参加する機会を設け、積極的に受講を促している。また、ユニット会議や、申し送り時に研修内容を報告し、共有化を図っている。研修記録も整備されており、職員は、いつでも閲覧できるようになっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、市が主催する管理者会議に出席したり、協議会が主催する研修会のグループワークの中で、職員が、ほかのホームとの交流を持つ機会があり、意見交換などをして連携を図り、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族が、対応や環境に早く馴染み、安心感が得られるよう事前に家庭や病院を訪問し、情報収集を行なっている。また、ホームに見学に来ていただき、早期に馴染みの関係が築けるよう配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者が輝ける場面をつくり、さりげなくサポートしていくことを念頭に置き、食事の準備、裁縫、畑仕事など、職員と一緒にできる範囲で教えたり教えられたりと、学びの中で共に喜怒哀楽を共有している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者との日頃の会話や、家族からの情報収集により、思いや希望を汲み取る努力をしており、その人らしい生活を過ごせるような支援を実践している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は、常に利用者、家族の意見や希望を聞くように心がけており、ユニット会議や、日頃の気づきや、医療機関の意見も参考にし、介護計画を作成し、ケアの実践を行なっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは3ヵ月に一度行なっているが、状態に変化が生じた場合は、利用者、家族の安心に繋がるよう、常に関係者と話し合いを持ち、随時介護計画の見直しを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の要望に応えるべく、可能な限り通院介助、買物、また、所有のマイクロバスで、時には家族も交え温泉や外食、ドライブなどサービス提供を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医や、利用者や家族が希望する病院への受診の支援を行なっている。そのほか週に一度協力医療機関の往診が受けられ、緊急時にはその日の当番医療機関を受診し、後日改めて協力医療機関の受診を行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについては、指針を作成し事前に利用者、家族の意向を確認している。職員は、日頃から知識や技術の向上を目指しており、看取りが必要になった場合は、家族や職員、協力医、看護師を交え話し合いをし、方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては、書面にて利用者、家族の同意を得ており、記録などは適切な場所に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、朝のミーティングで利用者のその日の体調を把握し、一人ひとりの生活ペースに合わせ、希望にそった一日が送れるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、利用者の嗜好を周知しており、利用者と一緒に献立を考えたり、簡単な下準備、後片付けなどをサポートしている。更に、同系列のホームと競い合い、各ユニットごとに献立に創意工夫がみられ、食事時の会話の中からも、楽しみな時間帯になっていることがうかがえる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は11時から16時とし、そのなかで、利用者の入浴時間、曜日の希望を採り入れ、週2～3回の入浴を確保している。入浴に支障がある場合は、シャワー浴、清拭などで清潔を維持している。入浴は、職員と利用者との大切なコミュニケーションの場でもある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	部屋の掃除、洗濯後の衣類の仕分け、畑仕事、裁縫、ポスター作り、歌、踊りなど、職員の見守りや一部介助により、日常的に張り合いを持って営まれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望を聞きながら、近辺の散歩や、ドライブがてら買物へ行ったり、畑や花壇への水やり、地域の行事に参加するなど、ホームに閉じこもらないように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全確保が不十分との見解から、ユニット入り口は施錠し、布で被うなどの配慮がされており、利用者、家族からは、理解を得ている。利用者の外出時には開錠し、職員同行のもと、自由に出入りがされている。	○	職員が目配り、気配りで、外出する気配を察知し、また、地域住民にも理解を求め、声かけや連絡をしてもらえる体制を整えながら、時間帯を決め開錠するなど柔軟な対応への試みが期待される。

千歳市 グループホーム 里の家千歳

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜想定年2回の消防訓練実施により、全職員は、災害マニュアルを周知しているが、地域住民との連携プレーには至っておらず、今後、町内会の方々と車椅子の取り扱い方などの訓練を検討している。	○	利用者の命の安全を確保するためにも、早急に地域住民の方々の協力が得られるよう、実施に向けての取り組みが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態を考慮した食事の提供が行なわれ、一日の摂取量、水分量を記録し全職員が共有している。また協力医療機関の栄養士による栄養指導も実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、照明、換気、温度調整に気を配り、室内の装飾も華美ではなく落ち着いており家庭的な雰囲気である。ほとんどの利用者が居間でゆったりとした時間を過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入居前の延長のような馴染みの家具や生活用品を配置し、利用者が落ち着いて安心して過ごせるよう配慮がされている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。